



世界をリードする IP ベース映像監視ソリューション Mediaproxy LogServer が、放送局、メディア事業者の DX 化に対応

ソフトウェアベース IP コンプライアンスソリューション（法定同録および映像監視）のグローバルスタンダードである Mediaproxy は、幕張メッセで開催される InterBEE2024 に全製品を出展します。これらには、映像音声の異常自動検知監視用の Monwall ハイブリッド・マルチパネルと、主要製品である LogServer ロギング・分析システムが含まれます。SMPTE ST2110、NMOS、ダイナミック広告挿入用 SCTE などの主要規格に準拠するこの多機能ソフトウェア・パッケージは、リニア放送局や OTT ストリーミング・サービスの需要の変化に対応し、進化を続けています。

LogServer は、海外および日本国内の放送コンプライアンス基準や規制を満たすために、放送配信される番組の信頼性の高いロギングとモニタリングを提供するように設計されています。ダイナミック広告挿入に関する SCTE-104/35 のガイダンスなど、オンプレミス、クラウドを問わず、どのようなワークフローにも簡単かつ効果的に統合できます。4K 解像度、HDR、10 ビット、クロズドキャプション（ARIB にも対応）、HEVC、TSoIP、SMPTE 2110/SMPTE 2022-6、Zixi、SRT など、あらゆるフォーマットのビデオ、オーディオ、リアルタイムデータに対応します。

今回発表する最新の LogServer は、AI-Media Technologies 社が最近発表した自動文字起こし、字幕付けプラットフォーム「LEXI Recorded」と Skyline Communications 社のオープン・モニタリングとオーケストレーション・ソフトウェア「DataMiner」の両方をサポートし、放送局、メディア事業者の DX 化に対応しました。

InterBEE でデモされる最新バージョンの主な機能には、IP ネットワーク上の分散型システムの高度なクラスタリング、完全なクラウドサポート、大規模インストールの設定を簡素化するインターフェースプラットフォームなどがあります。変わりゆく要求に対応するため継続的に開発を行い、Mediaproxy はより深く、より適応性の高い監視機能を提供することができます。

Mediaproxy の日本担当シニア VP である小暮佳也は、「放送業界の急速な変化と、それに伴うワークフローの合理化を Mediaproxy の技術がどのように支援できるかということについて、メディア企業の皆様とお話できることを楽しみにしています。」と述べてます。



- ・ 出展会社名：Mediaproxy
- ・ 出展部門：メディア・ソリューション部門
- ・ 小間番号：8004
- ・ お問い合わせ連絡先：sales@mediaproxy.com